

①学習指導案

プログラム	No.10 「校歌の風景を見つめてみよう」
単元名 (学習時間)	3年生⇒「わくわく 赤とんぼ研究所」(全30時間) 4年生⇒「なぞ解き 龍野城」(全30時間) 5年生⇒「さぐれ!お城としょう油のつながり」(全30時間) 6年生⇒「重伝建地区たんさく隊」(全30時間)
学習のねらい	校歌の始まりが「鶏籠のみどり・・・」から始まることから、全学年のオリエンテーションで『けいろう』とは何かを問うことから、学習をスタートさせ、探究的な学習のイメージをもたせる。 また、三木露風作詞の歌詞が各学年の「龍野学」とのつながりを表していることから、校歌の歌詞に関心をもたせ、そして、学年の探究テーマにそった探究的な学習を展開していく。
学習内容	1 オリエンテーション(校歌から鶏籠山を考える、単元名を決める) 2 見る活動(龍野城をはじめ、テーマとつながる建物や場所を見学する) 3 聞く活動(見学によってできた「問い」を調査する) 4 話す活動(対話を通して整理・分析し、伝えたい事柄を目的に応じて編集し、対象となる相手に合った伝え方で表現する)
参考資料 準備品 実施場所等	資料「たつのの今昔」～鶏籠山のはなし～ タブレット たんけんボードとワークシート 各教室 龍野城 重伝建地区 醤油資料館 聚遠亭 旧脇坂邸 武家屋敷資料館



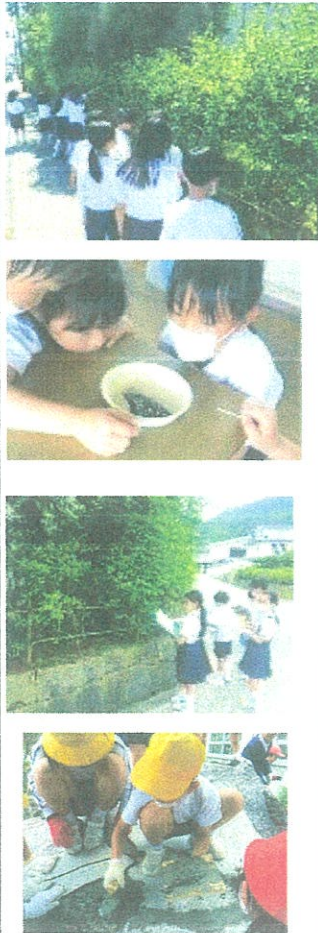
学習の流れ

時間	学習活動	教師の指導	評価
1	1【オリエンテーション】 校歌に注目し、まちを見つめる。	・校歌の歌詞から、ふるさとの風景に関心をもたせる。	☆主体的に学習に取り組む態度
2~9	2【見る活動】 まちを歩き、関心のある事柄を写真におさめる。	・自分なりに関心をもったことを中心にタブレットで撮影させるようにする。	☆知識・技能
10~20	3【聞く活動】 図書資料や地域の先生への取材を通して疑問を解決する。	・個別の疑問や気付きをみんなで共有する時間を持ち、ふるさとへの関心を広げる。	☆思考・判断・表現
21~30	4【話す活動】 伝えたいことを整理し、まちへ展示したり、直接話したりする。	・伝えたいことを整理し、スライドにまとめる。それを写真印刷し、まちへ掲示する。	☆思考・判断・表現 ☆主体的に学習に取り組む態度







<留意点>

歴史への関心を高めるには、特定の子の発言に注目するのではなく、自分なりの気付きや疑問から問いをつくるようにし、知的好奇心を大切にしながら展開を心がける。

① 事業実施報告書詳細

時間数	場所	概要	活動記録(写真)	対象者の反応
1 時間	教室	校歌の 1 番にある「けいろうの緑・・・」という言葉から「鶏籠山」について理解をする。(4年・5年・6年)		どの学年も鶏籠山を正しくいえる割合が少なく、学習の効果あり。
1 時間	教室	校歌の 2 番にある「物産 富みて 誉あり」の歌詞が特産品の醤油醸造を示していることを学習する。(5年)		三木露風の頃も龍野地区は醤油づくりが有名だったことを理解する。
65 時間	カラタチの垣根 (学校)	80 歳になるお年寄りの子どもの頃にはすでにあつた北原白秋にちなんで植えられたカラタチ。このカラタチには、アゲハの幼虫がたくさんいる。校内で飼育し、命の大切さに気付くとともに、カラタチのある景観を守る方法を考える。(3年生)		理科のチョウの学習と関連付けて学ぶ機会。羽化の瞬間を見たり、成虫に餌やりをしたりすることで、小さな命への関心をもつとともに、カラタチもアゲハの命も守ろうとする気持ちが芽生えている。 新聞にも掲載され、地域からも連絡を受けたことで自信になっている。

		<p>業の様子である。当時製作の富士山は、化粧直しをしたことで蘇ってきたと評判である。(3年生)</p>		
66 時間	<p>教室 龍野城 武家屋敷 聚遠亭</p>	<p>龍野城、武家屋敷、聚遠亭など城主の脇坂氏とかかわる建物を見学する。(4年生)</p>		<p>何気なく見ていた頃と異なり、龍野地区には、お城とかかわる建物が多いことに気付く子が多い。コメントから歴史への関心が高くなったことが分かる。</p> <p>地域の方をはじめ、多くの方に知ってもらう機会に、自己有用感を感じている子が多い。</p>

		<p>龍野城で弓矢体験をした。複数の弓や矢を教えていただき、その特長にも関心をもっていた。写真は矢を射るところである。</p>		<p>初めての体験にかなりわくわくするだけでなく、同時に当時の武士の道具に関心をもつ子が増えた。</p>
64 時間	教室 龍野城 大正口 マン館 醤油資 料館	<p>お城からの景色から龍野地区には醤油醸造の建物が多いいことに気づき、そして、まちにある建物や資料館を見学する。また校歌 2 番が産物にかかわることを理解する。(5年生)</p>	    	<p>歴史的な建物や蔵が醤油醸造と深く関わっていることを理解する。</p> <p>実際に見学することでかなり興味が高まっている。</p>
		<p>醤油ガイドの学習のため、地区内にある醤油工場を見学する。当時の工法で作業される様子を目の当たりにし、いっそう関心をもった。</p> <p>取材を終えて、分かったことをレポートしたり、プログラミングで伝える準備をしたりした。(5年生)</p>		

70 時間	教室 重伝建 地区	<p>江戸の街並み(重伝建地区)を歩き、その道はばや建物などが当時と同じであることに気付く。</p> <p>まち並みのよさを地域に伝えたい思いをみんなで共有する。</p> <p>取材した記録はショート動画で配信した。(6年生)</p> <p>夏祭りに地域の方に書いていただいたメッセージに全校生207名の顔を描き、それを連凧にして市のたこあげ大会に参加する。(市議会議長賞受賞)</p> <p>龍野学の集大成として龍野古城登山をした。(6年生)</p>	    	<p>いつも通っていたところが、貴重だったことに気付く。</p> <p>編集作業を通して、よりまちを知るきっかけになった。</p> <p>凧づくりを企画から行い、まちの思いを実感したようである。</p> <p>初めて登山した子も多くふるさとを俯瞰して見ることができた。</p>
----------	-----------------	--	---	--

① 学習内容について

応募申請時に、景観まちづくり学習を開始している場合などはご記入ください。

(1) 実施にあたり工夫した点

まず、三木露風作詞の校歌をもとに、三木露風から見た「鶏籠山」や「産物」に注目さ

せた。

龍野学のように、複数の学年がカリキュラムを組む場合、3年は理科（生き物）、4年は社会（まちの史跡）、5年は社会（地場産業）、6年は社会（歴史的建造物）のように、社会科や理科などの教科学習の内容と関連付けるとイメージしやすかった。

また、市や地域と連携した活動にすることで、ゲストティーチャーの確保ができ、体験的な活動のサポートもして下さることが多い。さらに身近な方からの褒めてもらえる機会にもなることから子ども自身の自己有用感の高まりが期待した。

(2) 実施にあたり苦労した点

3年生以上の総合的な学習の時間は週2時間の年間70時間である。もともとあったカリキュラムを見直しつつ企画した。子どもたちの気付きや疑問をもとに学習を展開するため、時間的に予定通り進まなかったり、例えば5、6年生の地場産業やまちなみ（歴史的建造物）への関心に時間がかかったり、資料から得た情報の整理で一定の満足を示し、探究的な活動につながらなったりする様子が見られることもあった。その都度、体験的な活動を入れつつ知的好奇心に働きかける工夫をしながら進めてきた。

(3) 児童の反応

本校では総合的な学習の時間を鶏籠山にちなんで通称「けいろうタイム」と呼んでいる。昨年度以上に「けいろうタイム」を楽しみにしている割合が高い。特に3、4年生が顕著である。体験活動が多いことも好影響していると考える。

(4) 担当教諭及び担当外教諭の変化

T1を教頭が担い、担任がT2を担うチーム・ティーチングで支援することで、龍野学を継続しようとする思いになっている。自らも学び続けようとする思いが増したことは、今後の学習指導にいきるはずである。

(5) 今後の課題と取り組み〔児童の思考過程と指導内容との関連付けから、留意すべき事項等〕

まずは一人一人の知的好奇心を高めることに注力する。そして、ふるさとの風景が見せるよさに気付かせていきたい。

2024年に開校150年を迎える本校は、11月末に記念式典と龍野学のような探究的な学習を紹介する。子どもたちがより身近に龍野学を感じ、主体的に学習を進められるようにするために、教材となる地域のひと・もの・ことに継続して取り組みたい。